

TEIJIN

帝人株式会社

<https://www.teijin.co.jp>

未 来 の 社 会 を
支 え る 会 社

明日のために、今日できる挑戦がある。

Quality of Life

テイジンは
人間への深い理解と豊かな創造力で
クオリティ・オブ・ライフの向上に努めます

気候変動に自然災害、少子高齢化、健康問題や食糧不足――

世界には解決すべき課題が山積みです。

その中でテイジンは、

「気候変動の緩和と適応」「サーキュラーエコノミーの実現」

「人と地域社会の安心・安全の確保」「人々の健康で快適な暮らしの実現」の

4つを重要社会課題と設定し、ソリューション提供に取り組んでいます。

テイジンが創業時から大切にしてきたのは、「挑戦心」。

人間性を尊重し、地球環境に配慮した「化学」を追求し、

人やさまざまな事象も対象として相互に「化学反応」させることで、

革新的な技術や製品、サービス、

そして新たな価値や人と人との絆を生み出し、

持続可能な社会の実現を目指します。

より詳しい理念体系はこちらからご確認ください。



Quality of Life

暮らしのここにも、あそこにも。

社会の隅々で人々の生活を支えています。

ここではその一部を紹介します。

在宅医療

呼吸器疾患への酸素濃縮装置や睡眠時無呼吸症候群(SAS)治療器など、患者さんの在宅医療を支える医療機器・サービスを通してQOL向上に貢献。

EV向けバッテリーボックス

当社が培ってきたマルチマテリアル技術を駆使し、電気自動車(EV)バッテリーの環境効率や安全性の向上に貢献。

ヘルスケア向けITサービス

放射線情報、就業管理、診療情報など広範囲な領域で医療従事者や患者さんの視点に立ったITソリューションを展開する他、地域包括ケアシステムの実現に向け、多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」を提供。

テニスラケットのフレーム

繊維シートに樹脂をしみこませた炭素繊維中間材料プリプレグや、パラ系アラミド繊維「トワロン」を使ったスポーツ用品は、高い強度や耐久性、軽量化などを実現。

スマートフォン部材/部品

高屈折率かつ低複屈折を実現したポリカーボネート樹脂「バンライト」によりカメラの小型化、高性能化を実現。また、革新的セパレータ「リエルソート」がリチウムイオンバッテリーの安全性向上と長寿命化に貢献。

航空機の構造材

鉄の約10倍の強度を持ちながら、重量はわずか4分の1である炭素繊維「テナックス」。機体を軽量化することでCO₂排出量低減に貢献。

医薬品

「骨・関節」「呼吸器」「代謝・循環器」の医薬品に加え、より支援を必要とする希少疾患や難病などの疾病領域へも注力。

天井材

ポリエステル製タテ型不織布を基材とした、柔らかな超軽量天井材「かるてん」。地震などで天井が落下した際にも、人や物への被害を低減し安全性に貢献。

高付加価値スポーツ衣料

吸汗速乾性やUVカット性など高機能でありながら、デザイン性にも優れたスポーツ・アウトドア向けの素材・衣料を販売。

消防服

400℃超の耐熱性、優れた防炎性を有するメタ系アラミド繊維「コーネックス」は、消防に携わる方々の安全性と快適性の両立に寄与。

自動車部材

強度と耐久性に優れたバラ系アラミド繊維「トワロン」を使ったタイヤ補強材やブレーキパッドなどの摩擦材は、自動車の騒音、振動を軽減し、ドライバーの快適性と安全性を向上。製品の長寿命化にも貢献。また、ポリカーボネート樹脂「バンライト」「マルチロン」「バンライトフィルム」は、ヘッドランプ部品などの外装やタッチパネルなどの内装に使用され、車体の軽量化に寄与しつつ、音や匂いを制御し、車内空間を快適化。

電子書籍

漫画を中心とした、スマートフォン/PC/タブレット向けの国内最大級の電子書籍サイト「めちゃコミック」で、豊かな暮らしに貢献。

機能性食品

一般の大麦の約2倍の総食物繊維量を誇るスーパー大麦「バーリーマックス」はコンビニで販売されるおにぎりなどに使用され、人々の日々の健康に貢献。

製品・サービス一覧

テイジンは、事業の枠を超えて新たな「化学反応」を起こし、
私たちの暮らしを支えるさまざまな製品・サービスを生み出しています。

マテリアル、繊維・製品、ヘルスケア、ITという4つの異なる領域で事業を展開。
それぞれの強みを活かし、融合させながら持続可能な社会の実現に向けたソリューションを提供します。

マテリアル事業



多彩な領域で地球環境に配慮した ソリューションを提供

危険な環境下で働く人を守る作業服から、日々の生活に欠かせない自動車、航空機、エレクトロニクス機器などの産業用製品まで、当社の多彩なマテリアルは、幅広い領域で活用されています。さまざまな素材の複合により、さらに高機能で高品質な製品を開発し、社会の持続的な成長と人々の暮らしの進歩に貢献しています。

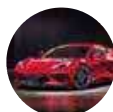
アラミド



炭素繊維



自動車向け
複合成形材料



樹脂



セパレーク・
メンブレン



航空機向け
炭素繊維中間材料



©AIRBUS

繊維・製品事業



「せんい」の力で快適で サステナブルな暮らしを実現

衣料繊維および産業資材の分野において、研究開発から最終製品までの一貫した供給体制により、多彩な用途展開と新市場の創出に取り組んでいます。モビリティ、環境、インフラといった成長領域でマーケット拡大を図るほか、センシング技術を中心としたウェアラブル製品開発など、新事業の取り組みを強化しています。

高付加価値な
スポーツ・ファッション
衣料用繊維



安心・安全な
暮らしを支える
高機能資材や製品



高機能繊維と
センシング技術を
融合した新事業



ヘルスケア事業



培ってきた事業基盤を活かして、 より支えを必要とする人々の課題を解決

人々が健やかに自分らしく生きられる未来の実現に向けて、医薬品と在宅医療を両輪とした事業を展開しています。長年培ってきた事業基盤を活かしながら、独自の製品・サービスを織り上げ、一人ひとりのニーズに寄り添う、他に類のない総合ヘルスケア企業への進化を目指します。

医薬品



在宅医療



地域包括ケア関連



機能性食品素材



再生医療



埋込型医療機器



IT事業



革新的なITサービスで、 まだ見ぬ新たな価値を創造

ヘルスケアIT分野やネットビジネス分野において、長年にわたる豊富な実績と高い技術力をもとにお客様やビジネスパートナーと「共創」し、新たな体験や感動、快適なサービスを提供しています。今後も技術開発を進めながら、さまざまな事業と融合していくことで、これまでにない革新的な価値を提供していきます。

ネットビジネス



ヘルスケア向け
ITサービス



企業向け
ITサービス



1918年、日本初の国産レーヨン（人造絹糸）メーカーとして産声を上げたテイジンは、戦争やオイルショックなど時代の大きな波の中で、常に新たな領域へ挑戦し、困難を乗り越え、進化を遂げてきました。社会は変わる。人も変わる。だから、テイジンも変わりつづける。あらゆる人の「クオリティ・オブ・ライフ」を向上させるために。そして「未来の社会を支える会社」となるために。テイジンは、いつでも、どんな状況でも、「挑戦者」であり続けます。

変革と挑戦。 これがテイジンのDNA。

Keep on Challenging

雨だれ
石を穿つ

1904

「レーヨン」の国産化に挑む

19世紀末から20世紀初頭にかけて欧米で工業化されたレーヨンは、生糸に変わる素材として瞬く間に世界中へ普及し、大正末期には全世界合計で生糸の生産量を上回るほどに。当時の日本では、のちに帝人の創業者となる金子直吉、久村清太、秦逸三らが、レーヨンの国産化を目指し研究を開始する。



久村 清太



秦 逸三



金子 直吉

1915

創業者3人の情熱が実を結ぶ

1915年に鈴木商店傘下の東レザーの分工場として米沢人造絹糸製造所を発足し、翌年に人絹糸の製造を開始。操業当初は「糸になる時もあれば、ならない時もある」というレベルであったが、3人はあきらめずに試行錯誤を繰り返し、1917年末頃には、ついに安定的に生産できる技術を確認。そして1918年には、帝国人造絹糸株式会社が発足。第一次世界大戦の激化で国内製品の需要が高まり、猛烈な勢いで事業を拡大していく。

1931

「黄金期」からの一転

軍需景気の高まりや種々の景気対策、糸質や加工技術の向上などにより、レーヨンの需要は拡大しつづけ、やがて日本のレーヨン糸生産量は世界第1位に。「黄金期」であった1933年、帝人は株式上場を果たす。しかし時代の大きなうねりのなかで、原料・資材の入手難によってレーヨン生産量は激減。やがて高度経済成長期が到来するも繊維業界は過剰設備に苦しみ、レーヨンは衰退の一途をたどる。

Challenge

独自技術で

合成繊維「テビロン」を開発

1948年から合成繊維の研究を開始。原料の入手難でたびたび中止するも、55年には独自技術によるポリ塩化ビニル繊維「テビロン」を開発。これはテイジンの「テ」、ビニルの「ビ」、ナイロン・ビニロンの「ロン」から組み合わせた造語で、衣料品や生活用品、各種工業用品にも販路を広げ、技術面の高さから第5回大河内記念賞や恩賜発明賞を受賞した。

未来永劫

千変万化

Challenge

熱可塑性炭素繊維複合材料(CFRTP)を
量産自動車の構造部材に使用する世界初への挑戦

2011年、当社が同年に開発したCFRTPの量産技術をベースに、米国のゼネラルモーターズ社と共同で、車体の軽量化を図る開発を開始した。CFRTPに使用する樹脂や繊維の組み合わせを見直すとともに、設計にも改良を施し、既存の複合材料に比べて縦方向の荷重に強く耐衝撃性に優れるCFRTPを開発。2019年、当社のCFRTP「Sereebo(セリーボ)」が、曙れてゼネラルモーターズ社のピックアップトラック2車種の荷台部分(ピックアップボックス)に採用された。スチールを使用したピックアップボックスに比べて約40%の軽量化を実現しただけでなく、耐衝撃性はスチールの約10倍、耐腐食性にも優れ、リサイクルも容易となった。CFRTPが量産自動車の構造部材に使用されるのは世界で初めてのことであった。



荷台部分に熱可塑性炭素繊維複合材料「Sereebo」が使用された
ゼネラルモーターズ社製ピックアップトラック

2008

構造改革の開始

リーマン・ショックによる経営悪化を受けて、テイジンは事業構造改革を開始。繊維事業は、ポリエステル繊維分野の拡大路線を転換し、不採算分野・事業から撤退するとともに、高機能繊維分野に力を入れた。樹脂分野は、グローバル生産体制の見直しや川下展開で事業体質を強化。複合材料分野では、2011年に熱可塑性炭素繊維複合材料「Sereebo(セリーボ)」の製造タクトタイムを約1分にまで短縮。これにより、世界で初めて量産対応が可能となった。こうして各事業は、顧客・市場視点でのソリューション提供に向けた組織改編と事業展開を進めていく。

2018

変革と挑戦で「未来の社会」を支える

2018年6月17日、テイジンは創立100周年を迎えた。マテリアル・ヘルスケア・ITなどさまざまな事業領域を持つユニークな企業体として、「人を中心に化学を考える企業」として、社会の進化をもたらすソリューションを提供するために挑戦を続けている。それは、「決してあきらめない執念」と「挑戦し続ける精神」があったから。「未来の社会を支える会社」へと至るのに、決められた道はない。「たゆまぬ変革と挑戦」によって絶えず「化学反応」を起こし、テイジンは「一歩先の未来」を切り拓いていくのである。



最新の技術や製品・サービスを紹介する「テイジン未来スタジオ」開設(2007年)

1968

基盤技術を活かした多角化の推進

ポリカーボネート樹脂事業とポリエステルフィルム事業が目覚ましく成長し、1960年代後半からの10年間で化成品事業の売り上げは約20倍に伸長。同時に、石油開発や食品、生活、情報、医薬などの新たな事業に積極的に取り組み、なかでも医薬事業が大きく花開いた。トップの強力なリーダーシップ、思い切ったR&Dへの先行投資、他社との多角的な取り組みにより、各事業がますます拡大していく。

Challenge

医薬事業の「骨・関節」領域への参入

テイジンは自社創業により活性型ビタミンD3の合成に成功し、腎不全の患者さん向けに初めて活性型ビタミンD3製剤「ワンアルファ」の製造承認を1980年に取得した。「ワンアルファ」にはカルシウムの吸収と骨代謝を促す効果も期待できたことから、骨粗鬆症の治療にも役立てられないかと考えた。当時、社会では骨粗鬆症の認知度が低く、薬剤開発の手法も確立されていなかったが、当時のフィルム事業が保有していたフィルムの濃度を定量化する技術を活用して、写真の影の濃度から簡単に骨量を測定できる「Microdensitometry(MD法)」を発案。この手法を用いて骨粗鬆症の判別に必要な健康な人のデータを大規模に収集した結果、活性型ビタミンD3が骨量を増やすことが明らかになり、1983年に「骨粗鬆症」の適応を取得した。グループ全体でつかみ取った、現在へと続く「骨・関節領域」への貴重な一歩となった。

1980

挑戦を繰り返し、強靱な組織へ進化

1980年代に入ると、1971年に操業開始したメタ系アラミド繊維「コーネックス」事業を拡大し、1987年にはバラ系アラミド繊維「テクノーラ」も登場。また、1980年には自社開発第1号医薬品「ベニロン」を上市。医薬品開発経験のないテイジンが挑んだこの薬剤は急速に市場に浸透し、発売後2年で大型商品の仲間入りを果たす。

1992

環境経営への取り組み

1992年には「帝人地球環境憲章」と「帝人地球環境行動目標」を制定。「環境経営」の一環としてマテリアルリサイクル事業に参入し、1995年からペットボトルを原料とするリサイクルポリエステル繊維「エコベット」の製造・販売を開始。のちの繊維・繊維の循環型リサイクルにつながった。2000年にバラ系アラミド繊維「トワロン」関連事業をオランダのAcordis社から買収し、高付加価値領域での事業展開を進めるとともに、ペットボトルのケミカルリサイクル事業にも進出。2008年には「複合材料開発センター」を開設し、複合材料の研究開発に着手。新たな価値創造の時代へと突入する。

実を結ぶ

蒔いた種が



当社の製造承認を取得した自社開発医薬品「ワンアルファ」
発売時の製品パッケージ

「未来の社会を支える会社」になるために。

人々の「クオリティ・オブ・ライフ」向上のため、あくなき挑戦と変革を繰り返してきたテイジンは、「持続可能性」を視野に入れてさまざまな事業を展開してきました。

地球環境、社会、そして人。それぞれが健やかで明るい未来を歩めるように、「地球環境を守る会社」として、そして「より支えを必要とする患者、家族、地域社会の課題を解決する会社」として、テイジンは、地球環境と社会に与える負荷を最小限に抑えるべく、5つのマテリアリティに取り組んでいます。





思い描いているのは、
「未来の空と社会」

素材の力で、“遠い場所”を

“身近な場所”にするソリューションを提供したい

ティジン・カーボン・ヨーロッパ
エアロスペースビジネスグループ

佐々木 みず葵さん

世界有数の炭素繊維製品メーカーとして
「未来の航空機」をつくる

ティジン・カーボン・ヨーロッパ(TCE)は、帝人グループの欧州における炭素繊維事業のグループ会社で、炭素繊維の製造および炭素繊維を加工した中間材料や部品などの開発・製造を行っています。設立以来、航空宇宙や自動車、土木資材や医療、スポーツ用品など、さまざまな分野で革新的なソリューションを提供しています。私が当社に入社したのは2015年、当初は技術開発の部署で、飛行機の主翼や胴体内で使われる炭素繊維複合材料を開発していました。その後、航空宇宙材料の営業部門に異動し、そこでは国内やアジアの顧客への技術サポートを担当。2021年からはドイツにあるTCEに出向し、現在はアプリ



ケーションエンジニアとして、欧州の顧客企業への技術サポートや開発プロジェクトの管理業務を行っています。

高強度と軽量性を兼ね備えた
革新的な素材

炭素繊維は鉄の10倍の強度を持ちながら、重量は鉄のわずか4分の1。実際に持ってみると、ほとんどの方がその軽さに驚きますが、高強度と軽量性の両立を可能にする、非常に画期的な繊維です。基本的には樹脂などと組み合わせた複合材料として使われますが、耐疲労性や防錆性、耐薬品性にも優れることから、さまざまな可能性が期待されています。炭素繊維自体は、50〜60年くらい前からスポーツ用品や自転車などで使われていましたが、近年は航空機や自動車など、活用される幅がますます広がっています。特に当社の炭素繊維「テナックス」は、航空機用途を中心に世界トップクラスの品質と高いシェアを誇っており、2021年度には航空機、風力発電、レクリエーションを含む用途全般において販売量が増えました。コロナ禍で国際線の旅客需要が落ち込んでいましたが、需要回復を見込み、現在は航空機向け中間材料プログラム獲得に向けた開発を推進しています。

カーボンニュートラルを
実現するために

主翼や胴体などの一次構造材は航空機の重量に占める割合が大きく、炭素繊維中間材料を使用して機体を軽量化することで、燃費を大幅に改善し、CO₂排出量の削減につなげることができます。また、欧州では環境やリサイクルに関する感覚が日本に比べて高く、実際にお客さまからも、その材料や製品がどのようにリサイクルされるのかまでを含めたソリューションの提案が求められます。当社はすでに、リサイクル炭素繊維の取り組みを進めています。今後さらに炭素繊維の可能性を追求することで、さまざまな切り口から持続可能な社会の実現に寄与できると考えています。

「人」を中心に据えた
ソリューションを提供

もうひとつ、大きな課題として取り組んでいるのが生産プロセスの効率化です。当社はこれまで、炭素繊維の「糸」そのものを航空機メーカーや中間材料メーカーに供給してきましたが、今後はより航空機向け中間材料の製造を手がける方向にシフトしていきます。航空産業は、短期的にはコロナ禍による打撃を受けましたが、長期的に見ればさらなる市場成長が見込まれています。そのため、航空機メーカーはより多くの機体を生産するため、生産プロセスをより効率化していく必要があります。そこで私たちは、航空機に使われる中間材料の樹脂を固める工程にかかる時間を大きく圧縮する製造方法を開発しました。従来の方法では5〜6時間かかるところを、装置と材料の組み合わせを変えることで、わずか20〜30分にまで短縮しました。私はもと



炭素繊維「テナックス」を使用した航空機の構造材

もと技術職として製造・開発を担当していましたが、現在は実際の現場で、私たちの製品やサービスがどのように使われるのかを見て、お客さまの課題を解決するサポートを行なっています。このように、炭素繊維という素材そのものにとどまらず、実際に使われるプロセスまでを含めた技術開発を行なっていることも、当社の強みのひとつですね。

見据えているのは「未来の空」

炭素繊維が多く使われる航空機産業では、米国と欧州にそれぞれ有力な航空機メーカーがあり、当社の炭素繊維事業もそれぞれに生産拠点を構えています。私はドイツ西部の工業都市ブッパータルにある職場で、世界中から来た同僚とともに、日々の業務に取り組んでいます。航空産業の開発は、とても長い時間をかけて行なわれるため、提案した素材がすぐに航空機の機体に使われるわけではありません。その意味では、私たちは常に10〜20年後の航空機を見据えています。

炭素繊維が航空宇宙分野にさらに広がることで、航続距離はどんどん伸び、「遠くてなかなか行けなかった場所」がもっと身近になっていくでしょう。私たちは「未来の社会を支える会社」として、そんな将来を思い描きながら日々の仕事に取り組んでいます。「未来の空を飛び航空機に、自分が開発に携わった技術が使われるかもしれない」と考えると、とてもやりがいを感じますね。いつか自分が開発に関わった航空機が運行する日には、ぜひ乗りたいな、と思います。

循環型社会実現に向けた取り組み

気候変動の緩和と適応

軽量で耐久性に優れた安全な自動車部品

2023年、ロータス・カーズの新スポーツカー「エミーラ」のドア、リアクォーターならびにテールゲートの部品に、テイジン・オートモティブ・テクノロジー（TAT）のGF-SMC（熱硬化性樹脂をガラス繊維に含浸させシート状にした成形材料）が採用されました。TATのGF-SMC製の超軽量成形部材「TCA Ultra Lite」は、従来のコンポジット部品よりも最大約4割の軽量ながらも、強度や耐久性に優れた他、外板部品の塗装に要求される「クラスA」品質を実現しています。



実証試験用の浮体式洋上風力発電施設の係留索に、パラ系アラミド繊維「トワロン」を使用したケーブルが採用

テイジンのパラ系アラミド繊維「トワロン」を使用した係留索は他素材対比最小の直径、且つ軽量でありながら、係留張力下の寸法変化が極めて小さく、さらに高い破断強度をも兼ね備えています。テイジン・アラミドB.V.は、綺麗な海を守り持続可能な未来を実現するために、使用済みとなった係留索の回収、リサイクルにも取り組んでいます。

新たな燃料電池ユニットと圧力容器ユニットの開発

2023年、燃料電池の利用促進と活用範囲拡大のため、燃料電池の稼働に必要な機材を一体化した燃料電池ユニットと、同ユニットに水素を供給する圧力容器ユニットを開発。工事現場での実証を通じて、さまざまな用途への展開を検討し普及を進めることで、CO₂排出量削減などの環境負荷低減に貢献します。



サーキュラーエコノミーの実現

リサイクル材料を使用した パラ系アラミド繊維「トワロン」長繊維の製造に成功

2021年、テイジン・アラミドB.V.は、使用済みのパラ系アラミド「トワロン」をリサイクルし、再び長繊維として生産する技術を開発。世界で初めて工業規模でのパイロット生産に成功しました。再生された長繊維の性能は、通常品である「トワロン」長繊維とほぼ同等で、優れた強度と耐久性を備えています。



地球と共存するポリエステル繊維「ECOPET」の開発

資源枯渇やCO₂増加、環境汚染の問題に対応した環境配慮素材として、1995年からリサイクルポリエステル繊維「ECOPET」を製造・販売しています。使用済みペットボトルはマテリアルリサイクル工程を経て、従来廃棄されていたポリエステル繊維・裁断くずはケミカルリサイクル工程を経て、リサイクルポリエステル繊維に生まれ変わり、衣料をはじめインテリアなどの生活資材や自動車内装材などの産業資材まで、幅広い場面で利用されています。



プラスチック海洋ごみ問題に取り組む「RE:ism」の設立

帝人は2021年から、漁網製造、プラスチック成型、繊維加工、樹脂加工をそれぞれ専門とする4社とともに、使用済みポリエステル製漁網のマテリアルリサイクルの新事業「RE:ism」を開始。回収から販売までのサプライチェーンを分業し、ポリエステル製漁網を樹脂ペレット化したのち、トレイや文房具などへ生まれ変わらせる事業を展開しています。



環境負荷を定量化し、改善活動につなげる

持続可能な社会の実現に貢献し「未来の社会を支える会社」となるためには、まず帝人グループの事業活動に伴う環境負荷を定量化する必要があります。そのため私たちは、ISO 14040および14044に準拠したライフサイクルアセスメント評価を進め、生産

プロセスでの環境負荷を正確に算出する取り組みを行っています。これは、CO₂排出量削減に向けた革新的な技術やアイデアを生み出すために必要な情報であり、お客様やエンドユーザーにとっても有益なものです。とはいえ、この取り組みは最初のステップにすぎません。この結果を基に改善ポイントを特定し、社内のイノベーションとバリューチェーンの関係者とのコラボレーションを通して改善活動につなげる必要があります。また、今日の化学メーカーが直面している主要な環境課題の一つは資源の

枯渇です。帝人グループはマテリアル事業を展開する会社ですので、サーキュラーエコノミーの実現に貢献する製品やソリューションの開発を進めています。さらに2023年4月に「環境ソリューション部門」を新設し、クリーンエネルギーやサーキュラリティなど、持続可能性に関する革新的な研究開発やソリューション開発の強化に取り組んでいます。特にサーキュラーエコノミーの実現は単独では達成できません。業界全体のパートナーとの密な連携が必要です。



サステナビリティ推進部 欧州コーポレートサステナビリティチーム
コーポレートサステナビリティマネージャー
スミタ・スングラム博士

誰もが安心して 在宅医療を受けられる 社会を目指して

“テイジンならなんとかしてくれる”、
そんな存在でありたい

日本初の医療用膜型酸素濃縮装置を開発

帝人ファーマは医薬品と在宅医療の2つの中核事業を展開しています。私は在宅医療に関係する部署に所属しており、酸素濃縮装置のほかに人工呼吸器、睡眠時無呼吸症候群の治療に用いられる「CPAP」という装置などを提供しています。当社は日本で初めて医療用膜型酸素濃縮装置を誕生させ、それまで入院するしか選択肢がなかった慢性呼吸不全の治療において、患者さんが手軽にご自宅で酸素を吸入できる「在宅酸素療法（HOT）」という新たな道づくりに携わりました。在宅酸素療法（HOT）によってご自宅にいながら療養ができるため、患者さんのQOLは向



帝人ファーマ株式会社 業務管理部
内田 美奈子さん

上しました。さらに、機器の開発販売とあわせて、保険適用に向けた働きかけや医療機関が利用しやすいレンタル方式の導入など、普及に向けた努力も重ねてきたことで現在に至ります。

「機器の開発」ととどまらない ソリューションを提供

さらに私たちは、酸素濃縮装置の開発や提供にとどまらず、地域密着型のサービス体制を構築しています。具体的には訪問看護ステーションや24時間365日対応のコールセンター、携帯電話網を活用した機器のモニタリングシステムなどによって患者さんを見守るとともに、災害時には災害対応支援システム「D-MAP」を患者さんの安否確認に活用しています。いつ何が起こるかわからない時代ですから、このようなシステムの需要がますます高まっていくことを感じています。

24時間365日の保守管理体制を確立

安全な在宅酸素療法を実現するために、私たち事業者には患者さん宅の機器の管理やトラブルへの対応、そして個人

情報漏えい防止などに対する保守管理体制が求められます。患者さんの生活を支えるための24時間対応を維持し、緊急時や災害時にも酸素を途切れさせないためには、単に「機器を提供して終わり」というわけにはいきません。当社では日本全国に129ある営業所[※]に看護師や機器のメンテナンスを行うケア職を配置し、きめ細やかなサービスをご提供できるよう努めています。

※2023年3月現在

全ての安否確認事例が 貴重なデータとなる

この保守管理体制は、非常事態であっても途切れさせてはなりません。当社では阪神・淡路大震災や新潟県中越沖地震などの経験を踏まえて、独自の災害対策を進化させてきました。そのひとつが「D-MAP」です。災害発生時に営業所の担当者がまず着手するのが、在宅患者さんの安否確認です。「D-MAP」は一定の震度以上の大きな地震や、風水害などで自治体から発信される避難情報が出されると、その情報を自動受信して被災地域にお住まいの当社機器を使用している患者さんを特定し、個別に電話で状況確認していきます。酸素濃縮装置の稼働状況や酸素ボンベの酸素残量のほか、どこへ避難されるのか、避難先に酸素濃縮装置はあるのか、といったことを一人ひとり確認し、必要であれば社員が緊急支援に向かうこともあります。

いつでも「人」を中心に据えた ソリューションを

東日本大震災発生時には、地震発生から10分後には約25,000人の患者さんがリストアップされ、行政や医療機関と連携しながら対応していきました。現場の社員は患者さん一人ひとりのお宅を訪問して状況を確認していったのですが、このように患者さんに寄り添い、「人」を中心に据えたサービスを提供する姿勢こそ、当社の強みだと思います。災害対応の事例と対応方法の一つひとつは、貴重なデータとして社内に蓄積されています。これによって他のエリアの災害時の状況や対応を事業全体で共有でき、過去の経験がより良い仕組みや製品の開発に繋がります。業務管理部では、当社が実施した安否確認データを医療機関に共有する仕組みづくりを行い、現在は蓄積した

データを提携先の医療機関に提供することが可能となりました。

患者さんのさらなる安心のために

阪神淡路大震災が起こった当時には、現在のようなシステムは確立しておらず、患者さんの情報を紙の台帳でやりとりしていました。そのため安否確認を行うのに約2週間も要したのですが、その教訓から在宅医療地震災害対策マニュアルの整備、酸素ボンベの備蓄増強などを経て、2007年の新潟県中越沖地震の経験から「D-MAP」の構想が生まれました。

そして東日本大震災、熊本地震といった大きな災害を経てシステムを改善し続け、現在はリアルタイムで情報を入力できるほどに進化しました。行政や医療機関などともこのシステム上で繋がり、データをスピーディに共有できればいいのですが、個人情報保護などの問題もあってなかなか難しいのが現状です。しかし、これは将来的に克服したい課題の一つです。



東日本大震災の被災地にポンペを届ける社員

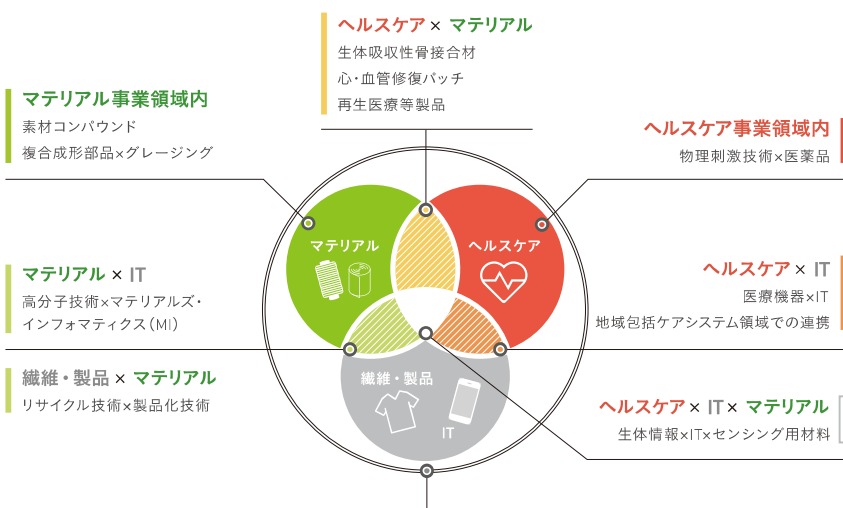
「未来の社会の安心」を実現するために

私たちが目指すのは、地域医療の現場において、医療関係者の方々からも患者さんからも頼りにされる会社。「テイジンに言えばなんとかなる」という存在でありたいと考え、常に改善を重ねています。近年は地震以外に豪雨災害など、災害の種類も頻度も増えています。全国各地で実施された安否確認のデータが未来の社会の安心に繋がる、そんな循環を作り出したいと考えています。

イノベーション創出

事業と組織の枠を超えたコラボレーション

海外、国内それぞれ10カ所を超える研究開発拠点のネットワークとグループ各社の連携を強化し、組織を活性化することで、革新的な製品・サービスを生み出しています。



オープンイノベーション

企業・公的研究機関・大学など

- ・ アライアンス
- ・ アクセラレータープログラム
- ・ 共同研究開発
- ・ コーポレートベンチャーキャピタル
- ・ コンソーシアム

私たちは、新事業創出に向けて、オープンイノベーションにも取り組んでいます。研究開発や生産・販売などを社内のみで完結させるのではなく、社外を含めた幅広いネットワークを形成し、共同研究や情報交換・人材交流などを進めます。

FOCUS

ヘルスケア × マテリアル 心・血管修復パッチ

ポリマーを用いた製品設計技術および医療機器の開発ノウハウを活かし、大阪医科薬科大学・福井経緯興業株式会社と共同で開発した「心・血管修復パッチ」。先天性心疾患の治療に使用されるこのパッチは、患者さんの成長に伴って伸張し、組織の成長を阻害しないため、再手術のリスク低減が期待されています。



当社は、製品・サービスの創造からビジネス構築、利益創出までの一連の活動を「イノベーション」として捉え、未来の社会が立ち向かうことになる課題を解決するために、帝人グループならではの総合力と機動力を発揮することを目指しています。

多様な人材が活躍し、自己実現できる組織体制

帝人グループは、企業理念の1つに「社員と共に成長」することを掲げています。グローバルレベルで社員が能力・個性を発揮すること、革新と創造に挑戦すること、多様な個性に彩られた人間集団を実現することを目指し、様々な施策を推進しています。

人事部門体制のグローバル化

日本、欧州、米国、中国およびアジア太平洋の各リージョンに、人事・総務管理の直属として人材マネジメントの統括責任者（ダイレクター）を配置。統括責任者間で人材戦略を共有し、リージョン内外でのグローバルな事業戦略に一元的に対応できる組織を構築しています。

人材育成とグローバルタレントマネジメント

グローバル経営を担う将来のリーダーを育成するために、全世界のグループ会社社員の中からコア人材を選抜し、リーダーシップ開発プログラムを展開。戦略的なアサインメント、人材の適正な評価、経営陣によるメンター制度のほか、女性や外国籍社員の参加に関するKPIも組み込まれています。ほかにも、グローバル人材の早期育成を目指す「海外実務者研修制度」や、グループ内公募制度等も設けています。

働き方改革

生産性の維持・向上を前提に、テレワーク制度を含む柔軟な人事・処遇制度の確立を進めています。また、ワークライフバランスの推進を目的に、育児休暇の取得促進や介護休暇制度、ボランティア休暇制度、配偶者海外転勤同行休暇なども整備。また、心身ともに健康で働きがいを感じられる職場を目指し、その基本的な価値観を「帝人グループ健康経営宣言」として表明し、6年連続で「健康経営優良法人」に認定されています。

PRIDE 指標

企業などのLGBTQに関する取り組みを評価する指標



3年連続で最高評価獲得

D&I アワード

企業の多様性推進の取り組みを評価する指標



2年連続で最高評価認定獲得

なでしこ銘柄

女性活躍推進に優れた上場企業を評価する指標



2018～2022年まで、5年連続で選定

ダイバーシティ&インクルージョンに関する詳しい情報は
こちら



FOCUS

海外実務者研修制度



コーポレート新事業本部 再生医療・埋込医療機器部門
インプラントフルメカデバイス戦略部
福垣 拓也さん

海外のネットワークとグローバルな視点を活かし
事業貢献のできる研究員に

3か月間の研修を通し、ベンチャーキャピタルの代表者やアメリカ食品医薬品局の審査官など、130人以上とコネクションを作り、アメリカでの関係構築プロセスを学ぶことができました。同時にヘルスケア分野の海外トレンドに触れ、国内で得られる情報量の限界に適切な危機感を持ちました。帰国後は、海外のマクロトレンドなどを意識的に調査するようになり、また海外企業と面談を設定するなど、仕事の質も向上したと思います。ヘルスケア領域では日々、研究開発競争の激しさが増しており、オープンイノベーションのパートナー探しますます重要になるでしょう。今回得たネットワークやマインドセットを活用し、グローバルな視点を持った研究員として事業貢献していきたいと思っています。

サステナビリティ

持続可能な社会の実現に向け、自社にとってのリスクと機会を整理し、持続可能な経営基盤として企業倫理・コンプライアンスや製造物責任(PL)・品質保証などのサステナビリティ活動を推進しています。また、事業活動に伴う環境負荷を最小化するため、温室効果ガス、水、有害物質、埋立廃棄物などのKPIを定め、取り組みを強化しています。これらの取り組みは代表的なSRI(社会的責任投資)指標に継続的に採用されるなど、国際的に高い評価を受けています。2023年には、全世界を対象にサステナビリティにおいて優れた企業を選定する「Global Sustainability Yearbook 2023」にも掲載されました。

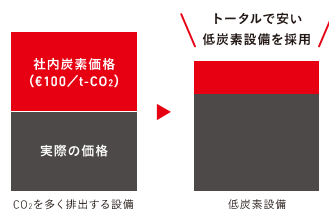
主要アクション

●温室効果ガス排出削減 ●資源有効活用、廃棄物削減 ●環境汚染防止、化学物質管理 ●従業員の健康・満足度向上

環境負荷低減の長期目標(2018年度比)

気候変動(自社グループCO ₂ 排出量)	2030年度 2050年度	30%削減(総量目標) 実質ゼロ実現
気候変動(サプライチェーンCO ₂ 排出量)	2030年度	15%削減(総量目標) 総排出量<削減貢献量を達成
水	2030年度	30%改善(淡水取水量売上高原単位)
有害物質	2030年度	20%改善(有害化学物質排出量売上高原単位)
資源循環	2030年度	20%改善(埋立廃棄物量売上高原単位)

インターナルカーボンプライシング



帝人グループではインターナルカーボンプライシング制度を、2020年度に制定・導入しました。これは、グループ内でグローバル共通として設定した社内炭素価格(€100/t-CO₂)を仮想的な費用に換算して投資の判断基準のひとつとして運用するもので、設備投資、M&A、再生エネルギーの調達に関する長期契約などに適用するものです。これにより、CO₂排出削減に資する投資計画を後押しし、CO₂排出削減に関する長期目標の達成を目指すとともに、将来予想されるグローバルでの炭素価格の上昇に備えています。

リサイクル素材の利活用・環境配慮設計を促進し 持続可能なライフサイクルの実現を目指す 共同プロジェクトを開始



2022年より、富士通(株)と共に「リサイクル素材の環境価値化プラットフォーム実現プロジェクト」を開始しました。これは、バリューチェーン全体での環境負荷に関するデータの収集・分析や、リサイクル素材の出自の証明などの環境負荷情報を提供することで、リサイクル素材の利活用や環境配慮設計を促進する取り組みです。2023年には、そのプラットフォームを活用した「資源循環における環境価値化実証プロジェクト」を開始。自転車フレームに使用される材料の資源や環境負荷に関する証跡データを収集・管理するとともに、そのプロセスの実現性を評価し、可視化したデータの価値を検証しています。

Envision Racing Formula E Team(エンビジョン・レーシング・フォーミュラEチーム)への協賛活動



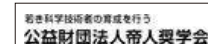
帝人グループは、電気自動車や再生可能エネルギーの普及を推進するEnvision Racing Formula E Teamへの協賛活動を通し、「気候変動の緩和と適応」に向けた帝人グループの企業姿勢を、グローバルに幅広いステークホルダーへ伝えるとともに、環境負荷低減に資する自社の技術や製品の自動車業界における認知拡大を目指しています。

社会貢献



全国高等学校サッカー選手権大会に協賛

「アマチュアスポーツ支援」「青少年のスポーツ支援」といった社会貢献の一環として、1991年より「全国高校サッカー選手権大会」に協賛しています。各都道府県の代表校には、人工皮革「コードレ」を使用したサッカーボールの寄贈も行っています。



国内外の学生へ、奨学金を貸与

帝人株式会社の創業メンバーである久村清太氏の功績を讃え、1954年に財団法人として創設されました。企業が設立・運営する奨学会制度としては、日本で最も歴史のある団体の一つであり、これまでに約1,700名の理系学生を支援してきました。

サステナビリティに関するより詳しい取り組み内容は、右記をご覧ください。



Corporate governance

コーポレート・ガバナンス

帝人グループは1999年にガバナンス改革を行い、コーポレート・ガバナンス強化にいち早く取り組んできました。取締役会、監査役会の多様性にも早期から取り組んでおり、2003年より女性の社外監査役を、2018年より女性の社外取締役を選任しています。取締役会は社外取締役を議長とするとともに、社外取締役比率を50%とし、その独立性を高めています。社外取締役とCEO、会長(会長が不在の場合には空席)で構成される指名・報酬諮問委員会に加え、広く長期的視点から経営全般への助言を行うことを目的に、国内外の有識者で構成する「アドバイザー・ボード」を設置し、取締役会の諮問機関と位置づけ運営しています。また、グループ全体に「行動規範」や「企業倫理規程」などの周知徹底を図り、帝人グループ全体でのコンプライアンス強化に努めています。

帝人グループ「行動規範」

Together

私たちは、多様性をお互いに尊重し、知識と能力を結集して持続可能な価値を共創します。

Environment, Safety & Health

私たちは、事業活動にあたり、地球環境、安全、健康を最優先します。

Integrity

私たちは、法令・規則を遵守し、人権および地域コミュニティを尊重して、誠実に行動します。

Joy at Work

私たちは、皆が仕事に情熱を持つことができる、働きがいに満ちた明るい職場をつくりあげます。

INnovation

私たちは、たゆまぬ変革により、社会やお客様のニーズを先取りした革新的なソリューションの創出に挑戦し続けます。

グローバルネットワーク

帝人グループは、世界20カ国以上に約170社を擁し、多様なバックグラウンドを持つ約2万人にのぼる社員が世界をステージに活躍しています。

海外拠点の詳しい情報はこちら

<https://www.teijin.co.jp/about/group-worldwide/material/>



Teijin Aramid B.V.



Teijin Carbon Europe GmbH



Teijin Automotive Technologies NA Holdings Corp.



日本

Japan

グループ会社: **54**社
従業員: **9,594**名

欧州

Netherlands / Germany / Portugal /
Czech Republic / France / Spain /
UK / Luxembourg

グループ会社: **23**社
従業員: **2,902**名



Teijin Polyester (Thailand) Limited

アジア

China / Thailand / Vietnam / Malaysia /
Singapore / South Korea / Myanmar /
India / Indonesia

グループ会社: **52**社
従業員: **4,493**名



帝人株式会社岩国事業所

北米・中南米地域・オセアニア

US / Mexico / Brazil

グループ会社: **40**社
従業員: **5,495**名

合計

169社
22,484名

2023年3月31日現在

社会の課題に向き合い、 人々に寄り添うことで 「未来の社会を支える会社」に

世界情勢は、社会、経済、安全保障など諸分野において激動の時期にあり、事態は刻々と変化しています。一方で、我々人類が地球で暮らし続けるための道標として設定されたSDGsへの取り組みは、歩みを止めることなく着実に進めなければなりません。

帝人グループは、長期ビジョン「未来の社会を支える会社」の実現に向けて、地球環境を守り、より支えを必要とする患者さんやその家族、地域社会の課題を解決し、人々の心と体のケア、その人々が暮らす地球のケアの両方に取り組む数少ない企業のひとつです。社会の課題や困りごとに向き合い、人々に寄り添うことが当社の強みであり、存在意義だと考えています。その存在意義を追求し、新たな価値の創造を加速して

いくために、さまざまな価値観や経験を持つ人材が能力を最大限に発揮できるよう、ダイバーシティ&インクルージョンに積極的な職場づくりを進めています。帝人グループは、100年を超える歴史の中、さまざまな困難を乗り越え、成長を続けてきました。常に変革していくDNAが備わっていると信じています。多様な考えを持つ社員一人ひとりが同じ志を持つ強いチームとなり、持続的に価値を提供できる企業を目指してまいります。

いつもお世話になっておりますステークホルダーの皆さまには、帝人グループの成長に向けまして、ご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

代表取締役社長執行役員 CEO

内川 哲茂



会社概要

社名	創立	資本金
帝人株式会社 (TEIJIN LIMITED)	1918年(大正7年)6月17日	71,833百万円(2023年3月31日現在)

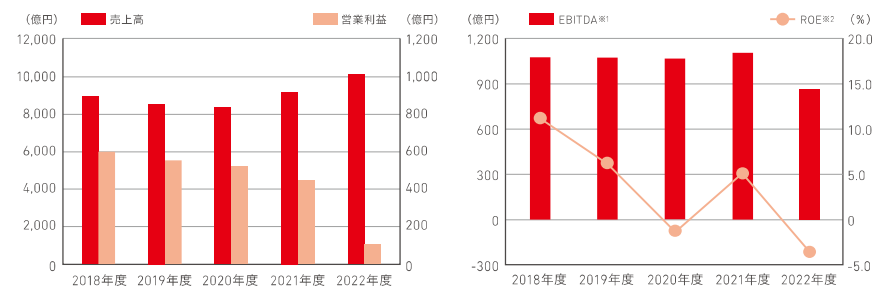
【本社】

東京本社
〒100-8585
東京都千代田区霞が関三丁目2番1号
霞が関コモンゲート西館
TEL:03-3506-4529(代表)

大阪本社
〒530-8505
大阪市北区中之島三丁目2番4号
中之島フェスティバルタワー・ウエスト
TEL:06-6233-3401(代表)

大阪本社肥後橋オフィス
〒550-8587
大阪市西区土佐堀一丁目3番7号
肥後橋シミズビル
TEL:06-6459-2110(代表)

業績(連結)



※1:「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出
※2:「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

事業分野と収益構成(2022年度)

